

平成 20 年度事業報告書

(平成20年7月17日 ～ 平成21年3月31日)

平成21年6月3日(水)

財団法人DNP文化振興財団

平成 20 年度事業報告書

(平成 20 年 7 月 17 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)

1 アーカイブ事業

(1) 田中一光アーカイブ

故田中一光氏の幅広い作品(ポスター作品、蔵書、その他資料)を収蔵しました。

株式会社田中一光デザイン室と連携の上、収蔵品台帳を作成、品目別収蔵スペースを検討し、CCGA(福島・須賀川)の収蔵庫に搬入しました。

○収蔵庫改修・搬入の日程:

11/18(火)	CCGA1 階応接室を寄託品庫へ改修
11/24(月)～25(火)	CCGA2 階会議室兼書庫を収蔵庫へ改修。書庫を学芸室に移設
11/26(水)～29(土)	CCGA美術品収蔵庫、1 階応接室、2 階会議室に什器を増設
12/2(火)～5(金)	田中一光アーカイブを美術品収蔵庫と収蔵庫に搬入・整理

○アーカイブ品目、点数(概略)

	項目	内容	什器	施設
A	①作品	ポスター約 15,000 点	ポスターケース B 全:113 段 B 倍:15 段	美術品収蔵庫 収蔵庫(会議室の改修) 約 20 坪
	②作品資料	指定、校正、各種作品、 ファイル等	スチール棚(w1 × d0,6 × h2,1)に換 算して 40 本相当	
	③作家資料	原稿、著書、講演、活動 記録資料等		
	④ポジ、写真、映像	ファイル、ケース入	別途	
B	⑤書籍、図録、雑誌	書籍約 13,000 点	段ボール 790 箱	収蔵庫 約 15 坪

(2) ポスターアーカイブ

平成21年3月末現在

1. 収蔵作家: 63 名 (グループ作家等のデータ整理後の人数)
2. 総点数: 7250 点
3. 平成 20 年度受入れ:
 - ポスター 763 点
 - 作家 4 名(北川一成、葛西薫、戸田正寿、山形季央)

(3) 人物アーカイブ

「CREATORS FILE—グラフィックデザインの時代を築いた 20 人の証言—」
を制作しました。

グラフィックデザインの時代を築いた 20 人のインタビュー記録(人物アーカイブ)を、DVD20 編セットとして刊行し、全国の主要な大学、図書館、美術館等の文化施設に寄贈するために送付先をリストアップしています。



タイトル: 「DNP グラフィックデザイン・アーカイブ

CREATORS FILE—グラフィックデザインの時代を築いた 20 人の証言—」

構成: DVD20 編セット+冊子(論考、作家年譜等)/ 紙箱ケース入り

制作本数: 200 セット

(4) 砺波市美術館へのアーカイブ作品の貸出

タイラーグラフィックス・アーカイブから 20 作家 62 点を砺波市美術館へ貸出しました。

「アメリカ現代版画への招待: CCGA 現代グラフィックアートセンターコレクションより」展

会期: 平成 20 年 11 月 8 日(土)~12 月 14 日(日)

会場: 砺波市美術館(富山県砺波市)

主催: 砺波市美術館、読売新聞北陸支社、美術館連絡協議会

協力: (財)DNP 文化振興財団

協賛: ライオン、清水建設、大日本印刷

概要: 読売新聞・美術館連絡協議会主催による CCGA 所蔵品展。砺波市美術館での単館開催。CCGA 所蔵タイラーグラフィックス・アーカイブから 15 作家 60 点を貸出展示。

開幕日 10 時からオープニングセレモニー参加し、同日 14 時から CCGA 学芸員によるレクチャー・ギャラリートークを行いました。



(5) 山形美術館へのアーカイブ作品貸出

現代美術作家・太田三郎氏の代表作「Date Stamps シリーズ」10 点を山形美術館へ貸出しました。

「太田三郎—日々」展

会期: 平成 20 年 11 月 1 日(土)~11 月 30 日(日)

会場: 山形美術館(山形県山形市)

主催: 山形美術館、山形新聞、山形放送、山形県、(財)山形県生涯学習文化財団

概要: 山形美術館企画・単館開催による、現代美術作家・太田三郎氏の回顧展。

(CCGA で 2000 年に個展を開催した際のアーカイブ作品「Date Stamps シリーズ」10 点)

2 展示事業

(1) ggg(ギンザ・グラフィックギャラリー)の展示

〒104-0061 中央区銀座 7-7-2 DNP 銀座ビル1階、地下1階

日曜・祝祭日休館 11:00a.m.ー7:00p.m.(土曜日は6:00p.m.まで) 入場無料

■第266回 中村勇吾展(ddd同時開催)

会期: 平成20年8月5日~8月28日

入場者: 6,216名、一日平均:296名

「NOW UPDATING...THA/中村勇吾のインタラクティブデザイン」

数々の革新的なデザインで注目され、日本を代表するウェブデザイナー・中村勇吾氏の習作、新作を展示しました。dddギャラリーと同時開催し、ggg・ddd両会場の来場者は画面にメッセージを描くことができ、そのメッセージと画像が両会場に表示されるという作品など、来場者が何らかのかたちで関わるインタラクティブな作品を展示の中心としました。



■第267回 平野敬子展

会期: 平成20年9月3日~9月29日

入場者: 3,768名、一日平均:179名

「平野敬子/デザインの起点と終点と起点」

白、グリッド、有機性をテーマとしたデザイン構成要素に考察を加えています。一貫して高い美意識が宿る平野敬子氏の代表作を紹介しました。平野氏自身による作品解説本を制作し、作品理解の一助とするとともに、本自体も大量展示し壁面を覆い、それ自体が展示作品となっています。



■第 268 回 原研哉展

会期：平成 20 年 10 月 7 日～10 月 31 日

入場者：7,140 名、一日平均：340 名

「白／原研哉展」

本展示は、余分なものをなくすこと、ものの本質を知ろうとすることへの静かな洞察を示しています。国内先行発売となる香水「KENZO POWER」、日本酒「白金」のパッケージ、プロデュース作品を書籍にまとめた『RE-DESIGN』や『HAPTIC』などのブックデザイン等を展示し、水を使った芸術性の高い作品「蹲(つくばい)」、「鹿威し」、「WATER LOGO」を紹介しました。



■第 269 回 M/M Paris 展

会期：平成 20 年 11 月 4 日～11 月 26 日

入場者：3,742 名、一日平均：197 名

「M/M(Paris):The Theatre Posters」

ミカエル・アムザラクとマティアス・オグスティニアックが 1992 年よりパリを拠点に活動するグループです。今回は、デザインやファッション、現代美術の世界も巻き込み活躍する彼らの CDDB ブルターニュ演劇センター・ロリアン劇場(フランス)のためのポスターシリーズ 41 点を展示しました。



■第 270 回 WIEDEN+KENNEDY 展

会期：平成 20 年 12 月 2 日～12 月 24 日

入場者：4,502 名、一日平均：237 名

「OYKOT/WIEDEN+KENNEDY TOKYO:10 YEARS OF FUSION」

企業の TV-CM やキャンペーンを手がけるエージェンシーとしてだけでなく、音楽レーベル(W+K 東京 Lab)を設立し数多くのアーティストを発掘するなど、幅広い活動を行う個性的なクリエイティブ集団です。ユニークな姿勢を体現する展示企画を行いました。会期中は、メンバーによるファッションショーやライブトークなど様々なイベントを開催しました。



■第 271 回 きらめくデザイナー展

会期：平成 21 年 1 月 9 日～1 月 31 日

入場者：4,224 名、一日平均：222 名

「きらめくデザイナーたちの競演／DNP グラフィックデザイン・アーカイブ 収蔵品展」

DNP グラフィックデザイン・アーカイブ(DGA)に寄贈いただいた作家 69 名を、作品約 5,600 点の中から 121 点を精選し紹介しました。作家を二人ずつの作品を対比させ、解説文とともに展示して、作品の時代性や作家の個性をより鮮明に浮かびあがらせました。

作品、解説文をまとめたパンフレットを作成し会場で配布しました。



■第 272 回 ヘルベチカ展(ddd同時開催)

会期：平成 21 年 2 月 5 日～2 月 28 日

入場者：5,132 名、一日平均：257 名

「Helvetica forever Story of a Typeface: ヘルベチカ展」

誕生から半世紀を経た現在、最も知られた欧文書体として人気を保ち続けている書体「ヘルベチカ」に焦点を当てた展覧会です。ヘルベチカを使用したポスターやパッケージを始め、写植用の文字の原図など、ヘルベチカに関するさまざまな資料を紹介しました。



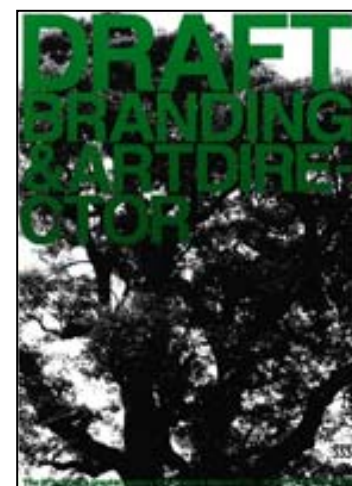
■第 273 回 ドラフト展

会期：平成 21 年 3 月 6 日～3 月 30 日

入場者：7,159 名、一日平均：358 名

「ドラフト展／ブランディングとアートディレクター」

ユニークなデザイン集団として知られるドラフトは、毎年のように「JAGDA 新人賞」受賞者を輩出しています。1 階会場では長年にわたり企業と取り組んできたブランディングの仕事を映像で紹介し、地階会場では所属する 9 人のアートディレクターの仕事を映像展示しました。



(2) dddギャラリー(大阪)の展示

〒550-8508 大阪市西区南堀江 1-17-28 なんばSSビル1階

11:00a.m.ー7:00p.m.(土曜日は6:00p.m.まで) 日曜・月曜・祝祭日休館 入場無料



■第 162 回 中村勇吾の Web Design 展

会期：平成 20 年 8 月 5 日～8 月 28 日

入場者：総来場者数:2,043 名、一日平均 97 名

「NOW UPDATING…THA/中村勇吾のインタラクティブデザイン」

gggと同時開催。中村勇吾氏の東京と大阪を結ぶインタラクティブデザインをテーマとした展示です。

■第 163 回 08ADC 展

会期：平成 20 年 9 月 9 日～10 月 8 日

入場者：総来場者数:1,686 名、一日平均 80 名

gggからの巡回展。一般・会員の受賞作及びノミネート作品の中からdddの展示スペースに合わせて作品を再構成し、展示しました。

■第 164 回 青葉益輝展

会期：平成 20 年 10 月 17 日～11 月 15 日

総入場者数：1,296 名、一日平均:59 名

gggからの巡回展(平成 19 年 12 月の企画展)。銀座の 2 フロアで展開した作品を、「エコ」「学生」の切り口で再選定し展示しました。

■第 165 回 真・善・美 杉崎真之介 & 高橋善丸展 (ddd独自企画)

会期: 平成 20 年 11 月 25 日~12 月 24 日

入場者: 1,771 名、一日平均 84 名

ハンブルク美術工芸博物館で大規模な展覧会を開いた杉崎真之助氏と高橋善丸氏のグループ展です。二人のデザイナーが制作する、構築と造形というそれぞれの特徴的なスタイルに焦点を当てることで、コミュニケーションデザインの原点を探っています。

杉崎氏、高橋氏の作品集を作成して、会場で販売しました。

■第 166 回 ヘルベチカ展

会期: 平成 21 年 1 月 15 日~2 月 27 日

入場者: 2,457 名 1 日平均 79 名

gggと同時開催。ラース・ミュラー、ヴィクトル・マルシー、フィリップ・トイフルの三氏の企画により、ヘルベチカを使用した国内外の様々な作品を紹介しました。嘉瑞工房蔵の活字見本帳組版や、ライノタイプ社に保管されている写植用手書き原図をはじめ貴重な資料展示も行いました。

■第 167 回 きらめくデザイナー展

会期: 平成 21 年 3 月 10 日~4 月 16 日

入場者: 1,333 名(4/8 現在)

gggより巡回。ggg開催時の作家 69 名・作品約 5,600 点の中から 120 点を精選して紹介。ddd巡回では、会場の広さの都合上、デザイナーの時代順に前期(3/10~3/29)と後期(3/31~4/16)の 2 期に分けて開催しました。

(3) CCGA 現代グラフィックアートセンター(福島)の展示

〒962-0711 福島県須賀川市塩田宮田 1

午前 10:00~午後 5:00(入館は午後 4:45 まで)

一般=300 円/学生=200 円/小学生以下と 65 才以上、障害者手帳をお持ちの方は無料

休館は月曜日(5 月 4 日を除く)、4 月 30 日(木)、5 月 7 日(木)

平成 20 年 11 月 25 日(火)~平成 21 年 2 月 27 日(金)は冬期休館

■所蔵品展「大きな版画、小さな版画：タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展 Vol.18」

会期：平成20年6月21日～9月7日

入場者：583名 1日平均8.6名

現代版画の特徴のひとつに、絵画に匹敵する大作が作られるようになったことがあります。本展は、同一の作家の大作と小品をならべて展示し、サイズによる表現の違いや魅力の違いを感じてもらおう企画を行いました。

7作家32点を展示しました。



■所蔵品展「黒のモノローグ：タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展 Vol.19」

会期：平成20年9月13日～11月24日

入場者：920名 1日平均14.8名

ロバート・マザウェル、フランク・ステラなど現代美術を代表する作家たちの手による、黒一色もしくは黒を基調色とした版画作品の展示です。

13作家44点を展示しました。



■所蔵品展「作品と題名：タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展 Vol.20」

会期：平成21年2月28日～6月7日

入場者：695名 1日平均11名(5/13現在)

現代美術を代表する作家たちが制作した、印象的な題名の版画を展示しました。

アラン・シールズによる、ユーモア溢れる題名がつけられた作品や、フランク・ステラによる、文学作品や実在の地名から引用した題名の作品などを通して、作品と題名を考える展示です。

8作家43点を展示しました。



3 教育・普及事業

(1) ギャラリートーク(セミナー)

展示会の開催に合わせて 24 回のギャラリートークを開催しました。

ggg(東京)会場: 15回

ddd(大阪)会場: 9回

参加者総計: 1,191人

ギャラリートークでは、会場のセミナー会議室、展示会場、外部のホールなどを使って、展示作家、周辺の方々、キュレーターの方々等に、講演形式、対談形式などさまざまなかたちでグラフィックデザイン、アートへの思いを語っていただき、グラフィックアート、デザイン文化の普及促進につなげています。

また、CCGA(福島)では常時、来館者の求めがあれば一人からでも職員による無料のギャラリー解説を聞けるサービスを行なっています。

(2) gggBooks

gggBooks、およびgggBooks別冊を 4 刊発行いたしました。



『gggBooks -86 平野敬子』: 本体 1,165 円、1800 部

『gggBooks -87 M/M』: 本体 1,165 円、1,500 部

『gggBooks -88 ネヴィル・ブロディ』: 本体 1,165 円、6,500 部

『gggBooks 別冊 6 福田繁雄』: 本体 2,625 円、2,000 部

(3) 講師・審査員派遣

平成 20 年 10 月 2 日、「木版画教室」(須賀川市小塩江公民館主催)に講師派遣(1 名)

平成 21 年 1 月 28 日、「田善顕彰版画展」(須賀川市商工会議所主催、須賀川市教育委員会後援)に審査員派遣(1 名)

平成 21 年 2 月 23 日、「ビジュアルアート大賞展」(学校法人国際アート&デザイン専門学校(郡山市)主催)に審査員派遣(1 名)

4 国際交流事業

(1)「New Graphic Design Japan: TDC 2008 展 (ggg 展) イタリア巡回」

ヴェニス サンジョルジョ島にあるジョルジョ・チニ財団美術館において、以前 ggg で開催した「08TDC 展」に過去の受賞作を加え作品点数を増やした巡回展の開催に協力しました。

主催：財団法人ジョルジョ・チニ美術館、スタジオ・アルテ

会期：平成 20 年 9 月 10～11 月 2 日

企画・運営：インターナショナル北斎研究所

協力：DNP、ギンザ・グラフィックギャラリー、TDC、日本領事ほか



5 研究助成事業

■協賛・協力助成

(1) 第 20 回田善顕彰版画展へ協賛

須賀川市商工会議所主催、2008 年 12 月、30,000 円 (CCGA)

(2) 第 21 回すかがわ国際短編映画祭へ協賛

須賀川市教育委員会主催、2009 年 5 月、30,000 円 (CCGA)

(3) 東京藝大付属藝大アートプラザ「反照する風景」展へ協賛

東京藝術大学美術学部絵画科版画研究室主催、2009 年 4 月、50,000 円 (CCGA)

■会員入会

事業目的にふさわしい以下の団体の会員となりました。

(1) 東京イラストレーターズ・ソサイエティ

賛助会員

(2) 東京アートディレクターズクラブ

賛助会員

(3) 社団法人日本グラフィックデザイナーズ協会

賛助会員

(4) 東京タイプディレクターズクラブ

会員

6 収益事業

(1) CCGA入館料 145,150 円

(CCGA入館料は展示事業の収益として決算報告に計上しております)

(1) 一般 ¥123,600 (@300×412名)

(2) 学生 ¥10,350 (@150×69名) ※特別団体割引 11月19日いわき市高等美術連盟

(3) 学生 ¥11,200 (@200×56名)

(2) CCGAサロン利用料 18,800 円

@200 x 94名

(3) その他雑収入 4,568 円

内訳

(ア) サロン使用空瓶返却代(仙台コカ・コーラボトリング)

(イ) 自動販売機に伴うコミッション・ロケーション代(仙台ビバレッジ・ネットワーク)

以上